

平成25年度 学部卒業生フォローアップ調査結果

〈調査概要〉

目的：寄せられた意見を今後の広島大学の教育・研究の改善に
活かし、優れた人材育成に繋げていく。

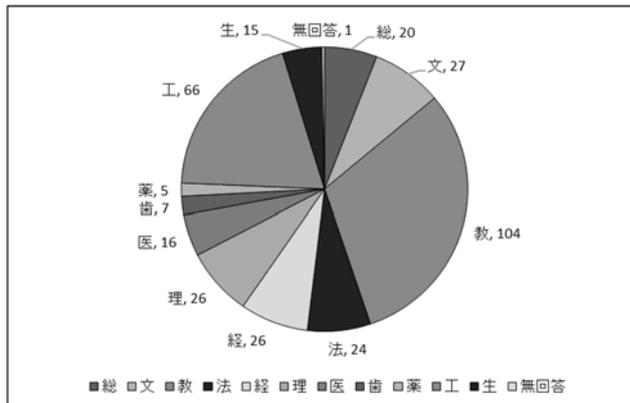
対象：平成25（2013）年度学部卒業生

方法：入学時の家族住所あて調査票を送付し本学あて返送。

期間：令和元年12月27日～令和2年2月29日

状況：発送数2,437、未達数201、回収数337、有効数337、
回収率 13.83%

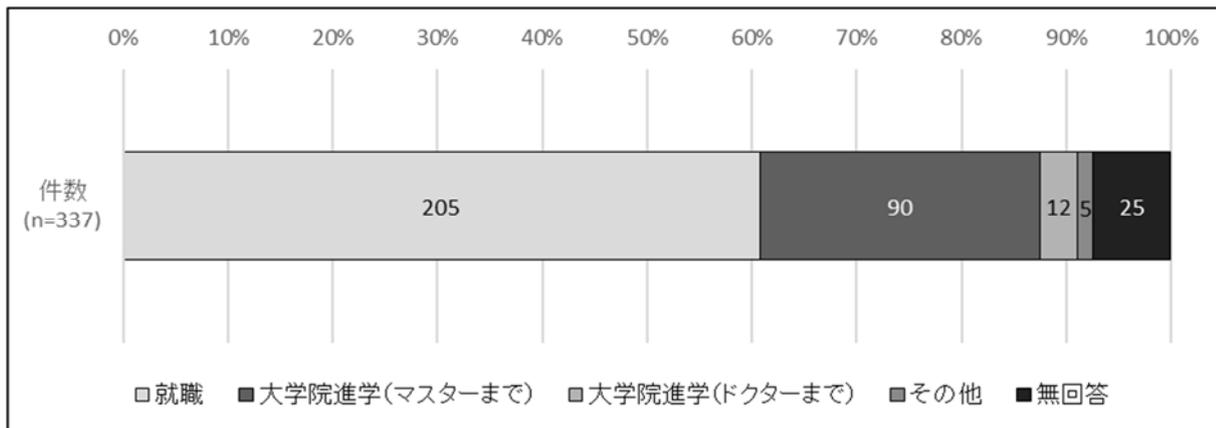
内訳：総合科学部 20、文学部 27、教育学部 104、法学部 24、
経済学部 26、理学部 26、医学部 16、歯学部 7、薬 5、
工学部 66、生物生産学部 15、無回答 1



〈調査結果〉

【質問】4. 学部卒業後の進路

1.就職 2.大学院進学（マスターまで） 3.大学院進学（ドクターまで） 4.その他

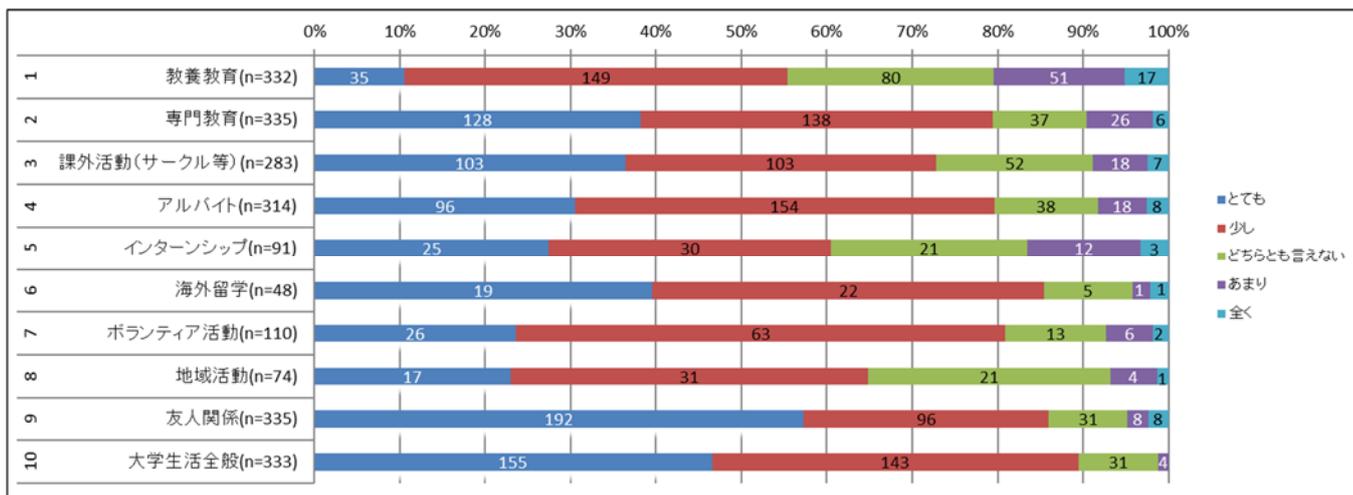


〈調査結果〉

【質問】 5. 大学生生活全般の下の項目は、現在どの程度役に立っていますか？

1. 教養教育, 2. 専門教育, 3. 課外活動（サークル等）, 4. アルバイト, 5. インターンシップ, 6. 海外留学, 7. ボランティア活動, 8. 地域活動, 9. 友人関係, 10. 大学生生活全般,

【結果】 ※グラフ中の各項目の右にあるn数は、とても、少し、どちらとも言えない、あまり、全くの合計回答数を表す。「該当しない」及び「無回答」は除く。



最も評価が高い項目は、「10. 大学生生活全般」、「9. 友人関係」、「6. 海外留学」の順である。

「10. 大学生生活全般」、「9. 友人関係」の自由記述欄では、就職の前後に知識や人脈、プライベートの充実や様々な活動に役立った旨の記述が多く見られた。「6. 海外留学」は、回答数は少ないものの海外留学や留学に来ている学生との交流が現在の職業に大いに役立っているようだ。「2. 専門教育」においては、専門知識を活かせる職種に就職したことが就職後に実感できている点や、広島大学という場での学習が大きな自信になっている点が高評価に繋がっている。

一方で、大学生活で活動や学習を「もっとやっておけば…」という旨の意見が散見された。

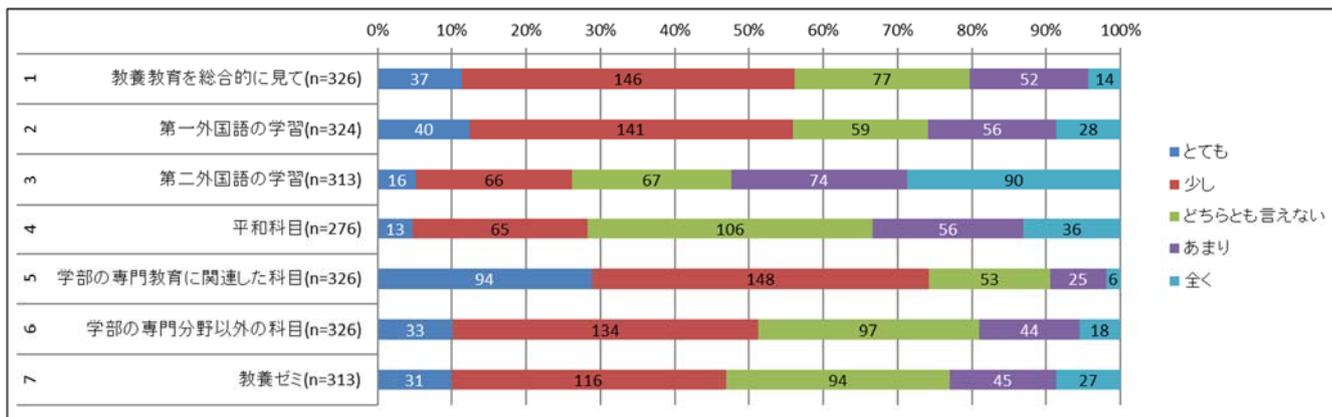
総合的には、大学生活で経験した事が社会に出て役に立っているという意見が多く、後悔や役に立たなかったというネガティブな意見は少なかった。

(6. 学士課程教育について)

【質問】(1) 教養教育の下の項目は、現在どの程度役に立っていますか？

1. 教養教育を総合的に見て, 2. 第一外国語の学習, 3. 第二外国語の学習, 4. 平和科目, 5. 学部の専門教育に関連した科目, 6. 学部の専門分野以外の科目, 7. 教養ゼミ

【結果】



最も評価が高い項目は、「5. 学部の専門教育に関連した科目」で、次いで「1. 教養教育を総合的に見て」「2. 第一外国語の学習」が高評価であった。

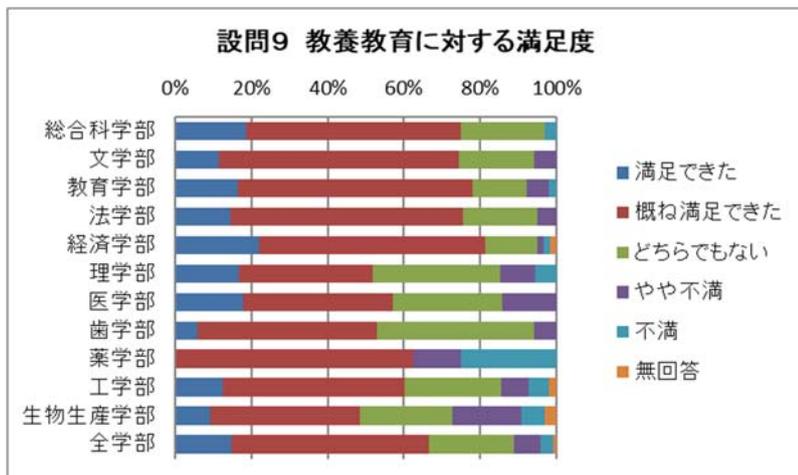
「5. 学部の専門教育に関連した科目」は就職後に仕事にすぐ使用できる内容だからか、役に立っているという記述が見られた。また多かった記述として「英語」や「外国語」という単語が見られたことから現社会において他国語は重要で様々な業種に役立てられているようだ。さらにパソコンスキルについても記述が多かった。特に「プログラミング」と言う単語が近年見られるようになってきているので、学生時代にはあまり重要視していなかったが社会に出て必要性が分かったということだろう。

全体的には役に立っているという内容もあるが、役に立っていないと感じている旨の内容も多く、自身の教養を充実させられたかそうでないかで意見が分かれている。

(参考) 平成 25 年度卒業生の卒業時アンケート結果では、「設問 9：教養教育に対する満足度」の項目で「満足できた・概ね満足できた」の割合が 66.7% (375 / 562 名) であった。母数が異なるため単純な比較はできないが、上記表の「教養教育を総合的に見て」は 56.1% (183 / 326 名) であり、卒後 5 年経って評価が若干下がっているようにも見える。

【参考】平成 25 年度卒業時アンケート結果『設問 9：教養教育に対する満足度』

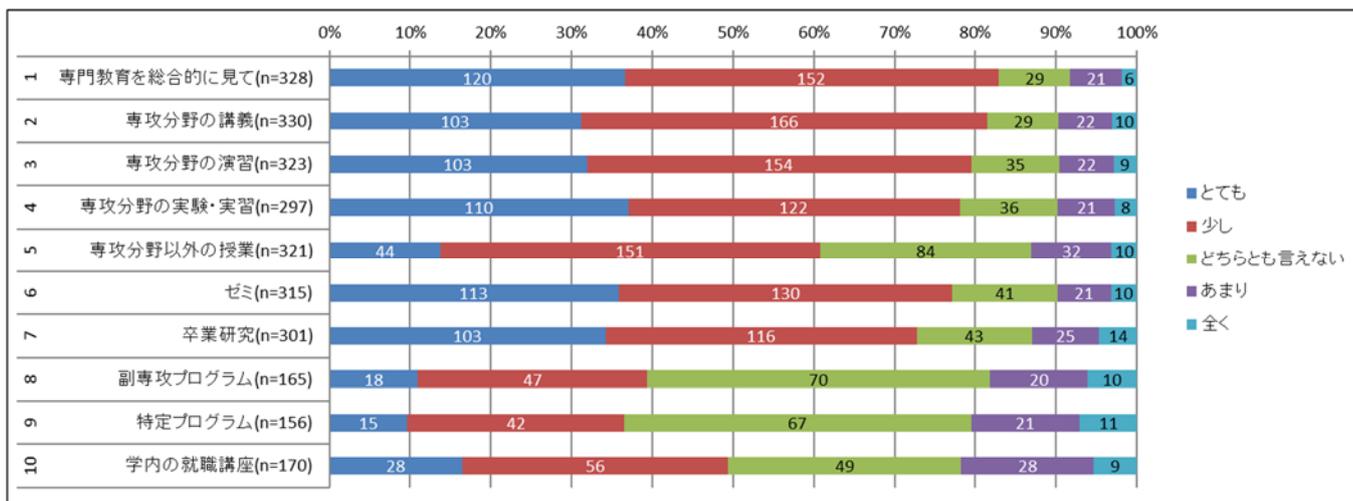
(「満足できた・概ね満足できた」の割合 66.7% (375 / 562 名))



【質問】(2) 専門教育の下の項目は、現在どの程度役に立っていますか？

1. 専門教育を総合的に見て
2. 専攻分野の講義
3. 専攻分野の演習
4. 専攻分野の実験・実習
5. 専攻分野以外の授業
6. ゼミ
7. 卒業研究
8. 副専攻プログラム
9. 特定プログラム
10. 学内の就職講座

【結果】



最も評価が高い項目は、「1. 専門教育を総合的に見て」で、次いで「2. 専攻分野の講義」、「3. 専攻分野の演習」「4. 専攻分野の実験・実習」「6. ゼミ」であった。

全体的に「～が役に立った」という意見と、「～すれば良かった」「～べきだった」という意見が多く見られた。

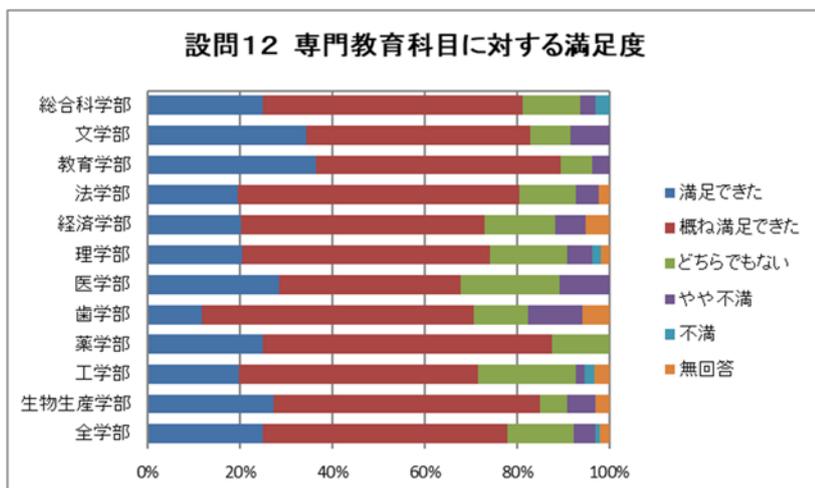
内容についてはそれぞれ意見があるが、専門教育を受講してその取り組み姿勢や現在での活かし方について後輩達に教訓として意見している節があるようだ。

しかし選択肢1～7までの評価は60%以上が「役に立っている」という結果が出ているので、総評すると卒業生は専門教育を今に活かしていると言える。

(参考) 平成25年度卒業生の卒業時アンケート結果では、「設問12：専門教育科目に対する満足度」の項目で「満足できた・概ね満足できた」の割合が77.9% (438/562名) であった。母数が異なるため単純な比較はできないが、上記表の「専門教育を総合的に見て」は82.9% (272/328名) であり、卒後5年経っても専門教育に対する評価は高いと言える。

【参考】平成25年度卒業時アンケート結果『設問12：専門教育科目に対する満足度』

(「満足できた・概ね満足できた」の割合 77.9% (438/562名))

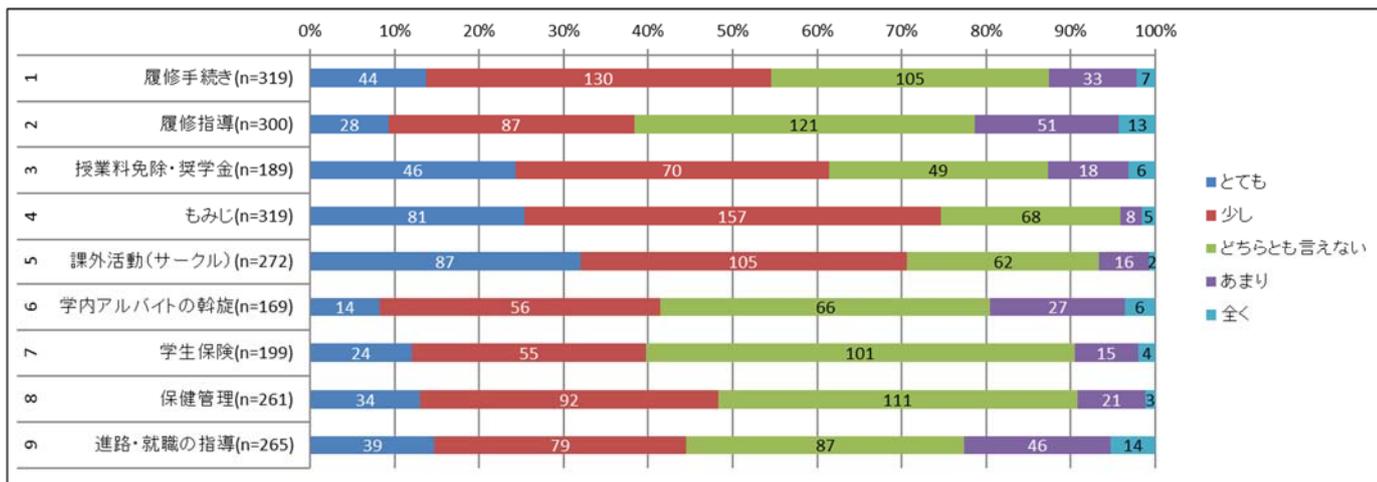


(7. 学生支援について)

【質問】 学生対応・支援で下の項目はどの程度、充実していましたか？

1. 履修手続き, 2. 履修指導, 3. 授業料免除・奨学金, 4. もみじ, 5. 課外活動 (サークル), 6. 学内アルバイトの斡旋, 7. 学生保険, 8. 保健管理, 9. 進路・就職の指導

【結果】



最も評価が高い項目は「4. もみじ」で、次いで「5. 課外活動 (サークル)」, 「3. 授業料免除・奨学金」の順であった。

「もみじ」は学生によって活用の度合いが違うためか、役に立ったという意見と立たなかったという意見の両方が見受けられた。

また、支援室の対応についても十分に指導を受けられた学生と対応の不足を指摘する学生の意見が目立った。特に就職などでは顕著であると思われる。

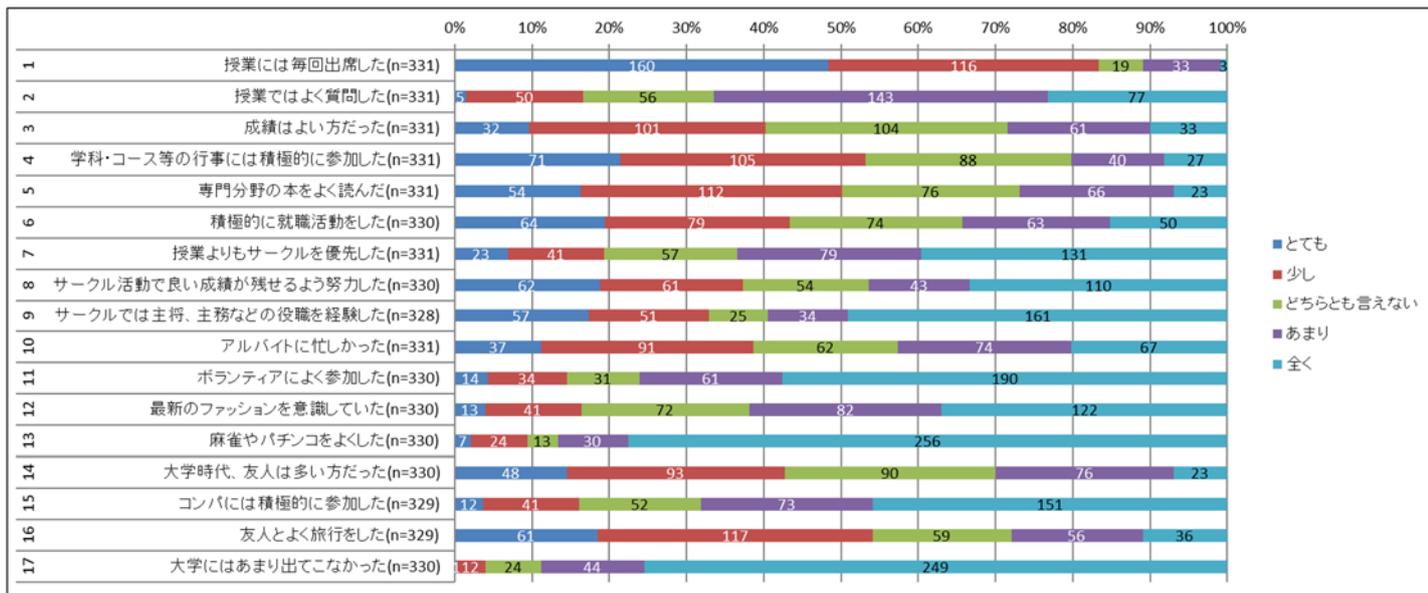
意見の中には奨学金制度に感謝する内容が散見された。一方で制度をあまり理解できていない人もいたようで情報の収集は学部やコミュニティによって差が生じているようだ。

(8. 学生生活について)

【質問】(1) 下のような各項目は、学生時代のあなたにどの程度あてはまりますか？

1. 授業には毎回出席した
2. 授業ではよく質問した
3. 成績はよい方だった
4. 学科・コース等の行事には積極的に参加した
5. 専門分野の本をよく読んだ
6. 積極的に就職活動をした
7. 授業よりもサークルを優先した
8. サークル活動で良い成績が残せるよう努力した
9. サークルでは主将、主務などの役職を経験した
10. アルバイトに忙しかった
11. ボランティアによく参加した
12. 最新のファッションを意識していた
13. 麻雀やパチンコをよくした
14. 大学時代、友人は多い方だった
15. コンパには積極的に参加した
16. 友人とよく旅行をした
17. 大学にはあまり出てこなかった

【結果】※グラフ中の各項目の右にあるn数は、とても、少し、どちらとも言えない、あまり、全くの合計回答数を表す。「該当しない」及び「無回答」は除く。



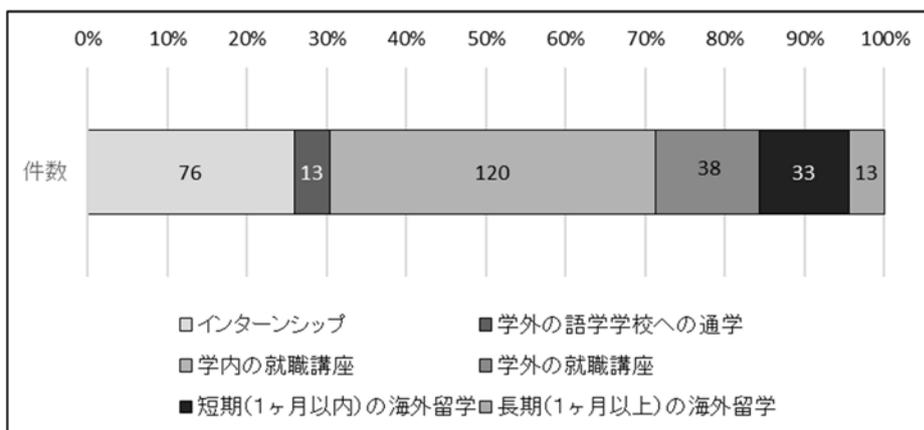
最も評価が高い項目は、「1. 授業には毎回出席した」、「16. 友人とよく旅行をした」、「4. 学科・コース等の行事には積極的に参加した」の順である。

「1. 授業には毎回出席した」が圧倒的に多かったが、それを証明するように「17. 大学にはあまり出てこなかった」という項目にあてはまる者が少なかった。

評価としては高かった「16. 友人とよく旅行をした」だが、旅行にもっと行っておくべきだったという意見が多く見られた。それは授業へ参加するのを主にしていたためと推測できる。中には「友人と会うため」と記述もあったため、学生生活は友人との交遊をベースに学問にもベクトルが向いていた為に現在に至っても良好な人間関係が構築できているのだろう。

【質問】(2) あなたは次のような活動に参加しましたか。(複数回答)

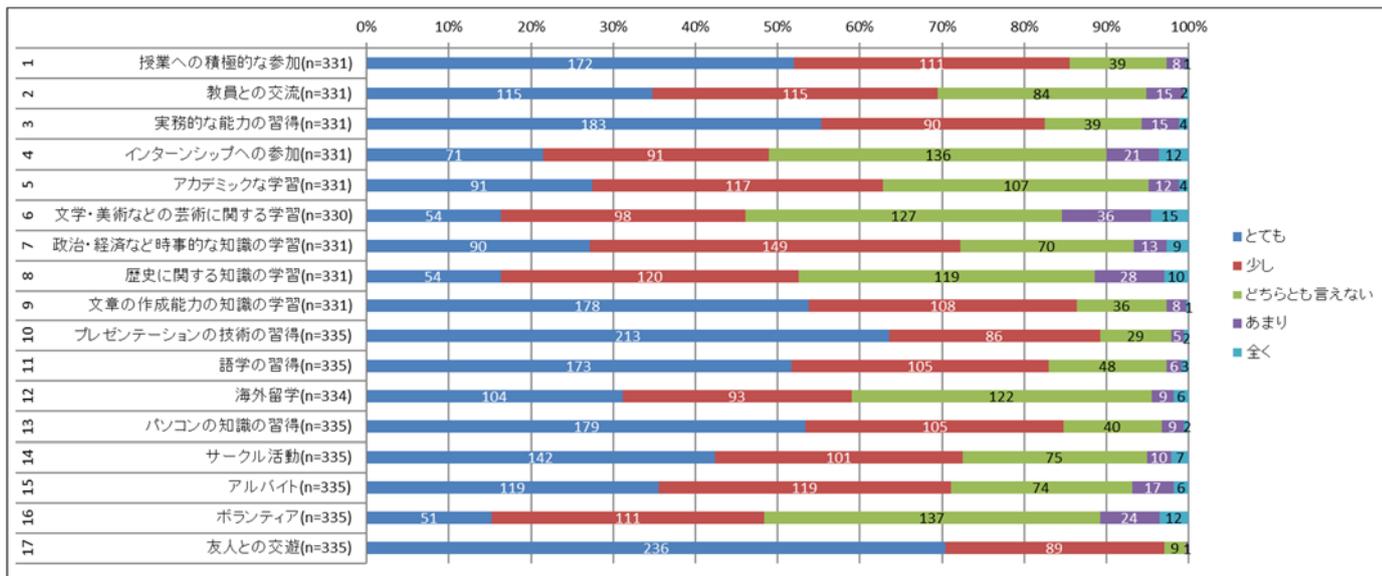
1. インターンシップ
2. 学外の語学学校への通学
3. 学内の就職講座
4. 学外の就職講座
5. 短期(1ヶ月以内)の海外留学
6. 長期(1ヶ月以上)の海外留学



【質問】(3) あなたが現在の学生にアドバイスするとしたら、次のような大学時代の学習や経験をどの程度すすめますか。

1. 授業への積極的な参加
2. 教員との交流
3. 実務的な能力の習得
4. インターンシップへの参加
5. アカデミックな学習
6. 文学・美術など芸術に関する学習
7. 政治・経済などの時事的な知識の学習
8. 歴史に関する知識の学習
9. 文章の作成能力の知識の学習
10. プレゼンテーションの技術の習得
11. 語学の習得
12. 海外留学
13. パソコンの知識の習得
14. サークル活動
15. アルバイト
16. ボランティア
17. 友人との交遊

【結果】※グラフ中の各項目の右にあるn数は、とても、少し、どちらとも言えない、あまり、全くの合計回答数を表す。「該当しない」及び「無回答」は除く。



最も評価が高い項目は、「17. 友人との交遊」で、次いで「10. プレゼンテーションの技術の習得」、「9. 文章の作成能力の知識の学習」の順であった。

全体的に多かった意見としては「時間を有効的に使う」という内容だった。語学留学や旅行、アルバイトなどを勧める記述が特に多く、卒業生が在学中に十分できなかったことを教訓として述べているようだ。

また、「10. プレゼンテーションの技術の習得」、「9. 文章の作成能力の知識の学習」に共通して意見が多かったのが「13. パソコンの知識の習得」を促す内容だった。それに加えて少数ながらAI やプログラミングという単語も見られ、新しいIT時代を見据えて在学生に基礎となるパソコンの扱いを勧めているようだ。

その他には人との繋がりを重視する記述が多かった。国内外どこにいても人とのコミュニケーションが大切で、勉強ばかりでなくボランティアやアルバイトなどで社会に触れ、人との関わりを持つようにアドバイスをしている。